

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月11日(水)

会場:みわ文化センター

参加者数:36人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>広島県立総合技術研究所林業技術センターへ消防庁舎を移転することにより、三和地区や三良坂地区からは少し近くなると思うが、市全体を見てみると、八次地区方面からは遠くなる。十日市地区にある踏切を渡るようになるが、どのように対応されるのか。市道や県道の改良等もあわせて検討してほしい。</p>	<p>・消防庁舎建設に関して、アクセス道路については、議会でも議論になった。消防庁舎だけを移転するというものではなく、アクセス道路も整備していく。十日市地区の中原踏切を越えて、三次インターチェンジに向けて行けば、大樽池跡地があり、それを右折すれば、消防庁舎の建設用地に着く。その用地までに行く道路やインターチェンジに向かう道路については整備予定である。中原踏切で遮断機が下りた時のシミュレーションを行いながら、専門家による分析もしてもらっている。今後、今の状況を市民の皆さんにも説明していく。 ・備北地区消防組合が、通行ルートを事前に検討し、二方向からのアクセス道路を確保できるように整備する予定である。</p>	
<p>・日本における2022年の合計特殊出生率は1.26であり、人口維持のためには2.03必要である。数値だけを見てみると、人口を維持することはかなり厳しい。昭和50年あたりから2.03を切っており、子どもがどんどん減っている一方で、平均寿命が伸びたことから、近年まで人口は減らなかった。ここ5年のうちで人口が減り始めたことで、いろいろな取組をしていかなければならないと思っている。全国の合計特殊出生率を調べてみたところ、東京都の1.04が最も低く、宮城県、北海道、神奈川県、埼玉県なども厳しい状況である。一方で、沖縄県が1.70と最も高く、2番目が宮城県である。広島県は全体の19番目で1.40であり、もう少し数値を上げることができればと思っている。首都圏の方々からは、西日本地方は憧れの地であると言われており、今から着目されると期待している。姫路市は、暮らしやすいまち、生活しやすいまちとして注目され、それに伴って子育て支援策にも力を入れている。 ・私たちのような60歳から75歳の人々が、地域で農業をするなど、コミュニティを維持している。引き続き、一生懸命頑張りたいと思っている。</p>	<p>・今年、久しぶりに100歳訪問をさせていただいた。今年、100歳を迎えられた方が56名で、100歳以上の方が130名となり、100歳をお迎えになられる方が年々増え、人生100年時代が間近になっている。健康寿命を延ばしていくことが大切である。今後、人口減少社会の中で、労働力を確保しなければならず、一億総活躍社会として、高齢者の皆さんにも地域の生産活動に加わっていただき、全員で自分たちの地域を元気にしていく取組が必要である。少子化は一気に改善することはできないが、今後も、子育て支援策を充実させていく。また、国においても、こども家庭庁が設置され、ある一定程度、国の責任のもとで支援策について検討されるという方向性も出ている。少子化については、地域だけの問題ではなく、国家としての大きな課題という位置付けの中で、今後取り組まれていくものである。子どもを授かりたいが、子どもを授かることができない方もおられることから、不妊治療の助成事業など、積極的に支援をしている。支援を本当に必要としている皆さんに対して、事業を推進していきたい。 ・まちづくりについては、それぞれの地域の個性や特徴を共有しながら、行政や住民自治組織だけではなく、共創による地域づくり、人づくりという観点が必要不可欠である。引き続き、一緒になって、この三和地区の元気づくりや将来像を考えていきたい。</p>	
<p>三次は、昔、川を活用して、広島市などの各方面から米や野菜、炭、木材などが集まったことで栄えた。その後、芸備線が開通した。昔をよく知る方に話を聞くと、芸備線には歴史があることがわかった。しかし、今、芸備線の廃止について議論が行われている。三和地区の若い人は、三次市街地に出るよりも、広島市に出ることが多い。本市の将来のためには、三次をスタートとする、新しい自動車の専用道路を造るしかない。酒屋地区に駅をつくるのが一番良いと思うが、三次市内にターミナルとなる道の駅をつくり、そこまでは車で行って、そこからは定期バスが各地に出ていく。また、吉田や志和口などの4か所に道の駅をつくる。30分ぐらいで広島市に通勤・通学ができるような交通体系や経済圏をつくることはできないか。</p>	<p>地域公共交通は未来に向けた大きな課題である。鉄道であるJRを生かすことにも大きな課題がある。現在、芸備線の備後庄原駅から備中神代駅までの区間については、JRから再構築協議会の立ち上げについて要請が出ている。地域では、鉄道を残すことがいいのか、バス路線に転換することがいいのか、国も関わりながら、話し合う。国が仲介することから、財政措置も行われる。三次駅から広島駅の区間は、今回の対象路線に入っておらず、当面の間は、芸備線の利用促進策に注力していく。芸備線については、本市だけで判断できない。安芸高田市や広島市、庄原市も含めた沿線自治体では財政規模や経済圏が異なり、各地域の事情もあることから、同じ方向を向いて、どのような将来設計を立てていくか協議していかなければならない。芸備線などの地域公共交通を日常的に利用していただくための仕組みを、地域の皆さんと一緒に作っていききたい。皆さんには、地域公共交通をご利用いただきたい。今、バス会社とJRと三次市とが共同して、芸備線と高速バスを両方使える「バス&レールどっちも割きっぷ」に取り組んでおり、非常に好評である。公共交通機関のお得な切符を活用していただき、地域公共交通をみんなで支えるということにつながるように、ご理解とご協力をいただきたい。三和地区内の地域公共交通についても大きな課題があることから、住民自治組織をはじめとする皆さんと協議しながら、持続可能な地域公共交通の確立に向けて話をしていきたい。「バス&レールどっちも割きっぷ」の販売実績は、令和4年度が約7,200枚であり、令和5年度については、上期だけで昨年度を上回っている。下期についても、利用者が増えてくるのではないかと予測している。市民の皆さんに、ようやく浸透しつつある。この事業をしっかりと継続しながら、日常生活の中で地域公共交通を利用していただく仕組みをどのように作るか、継続的に検討していきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月11日(水)

会場:みわ文化センター

参加者数:36人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>「スポーツのまちみよし」を実現するため、WBSO女子野球ワールドカップ予選の開催や、カープやJTサンダースなどのプロスポーツの試合観戦を実施されている。このような大会を数多く誘致して、小学校や中学校の児童・生徒等に観戦してもらいたい。また、プロ選手やアマチュアでもレベルの高い選手から指導や助言を受ける機会を、これまで以上に増やしてほしい。児童・生徒にとっては、技術レベルの向上だけでなく、やればできるという意欲を持つことにつながると思う。そのため、世界レベルや全国レベルの大会を誘致してほしい。</p>	<p>・これまで、本市では、宿泊所が足りないことが課題であったが、三次駅前に約250室のホテルができたことによって、今回、WBSO女子野球ワールドカップ予選という国際大会を誘致できた。本市の大きな弾みになると考えている。市内には4つの野球場があり、それらを活用した大きな大会も誘致できる。また、広島ドラゴンフライズは、選手の皆さんが、広島県内の小学校や中学校に直接向かって、子どもたちにバスケットボールの技術を教えるクリニックを展開されている。JTサンダースの選手によるバレーボール教室も開催されている。広島県自体がプロスポーツに触れることができる環境にあることは、他の都道府県にはない資源である。広島県ならではの強みとして、子どもたちの教育だけではなく、夢や希望をしっかりと定めるといったことにつながるような事業を実施していきたい。県内のプロチームとつながりを持ちながら、子どもたちにやればできるという意欲につながるような取組を展開していきたい。</p> <p>・本市では、三次観光推進機構(みよしDMO)が、市内に宿泊してもらい、地域にお金を落としてもらうための仕掛けを検討している。また、本市の資源であるスポーツ施設の利用率を上げながら、観光消費額を増やしていくような取組にもつなげていきたい。市民の皆さんに、スポーツを通じたまちづくりをしっかりと体感してもらえるように、継続的な取組を実施していく。</p>	
<p>近年、日本各地では人が足りておらず、農業や企業において人手不足になっている。15年前に、外務省の派遣で、ヨルダンを訪問した。戦後、ヨルダンの財政支出の60%が日本からの支援であり、日本に親近感を持っていると聞いた。日本語は十分通じる。日本に応援に来ていただくことにより、日本の経済発展や産業振興につながるのではないかと聞いた。全国の市町村の求人を含めて、日本への支援を頼んでいく必要がある。このままでは、高齢化が進み、家族がいなくなることから、特に農業分野や医療分野において人手不足となる。求人も、日本国内だけではなく、世界から求めて来る時代になっている。</p>	<p>今、本市に限らず、労働力の確保が国策として議論されている。外国人の労働力に頼らざるを得ない状況の中、外国人が日本で働きやすい環境にするため、特定技能制度の緩和について議論が始まったところである。市内企業と意見交換をした際に、外国人の生活文化と日本の生活文化には違いがあり、地域で受け入れてもらえない実態もあると聞いた。外国人の方を受け入れる体制も整えなければならない。現段階ですぐに取り入れることはできないかもしれないが、どのようにすれば外国人の労働力を確保できるか、今後も調査・研究を進め、本市の元気づくりにつながるような取組をしていく。</p>	
<p>三和地区のまちづくりのテーマは、「こころが元気、人が元気、地域が元気、地域の宝を活かす」ことが基本であると思う。三和地区には大土山という宝があり、現在、約40名で活動している「大土山を元気にする会」によって整備している。2017年から毎年、三和小学校の5年生が登山をされるなど楽しまれている。また、自分たちも子どもたちと一緒に登山している。ひろしまの森づくり事業を活用して整備するには、住民自治組織などが事業主体となるべきであり、私たちのような小さな団体ではできない。市が主体となる場合には、すぐ実施可能な事業である。今年、地域の自治会において、森づくりについて挑戦しようという機運が高まっており、事業資金を活用できるのではないかと、大いに期待している。</p>	<p>活用しようとしている事業は、行政主導で行う事業ではない。三次地区では、「三次地区の文化・観光まちづくりを進める会」を立ち上げて、比熊山の整備を実施されている。今後、三和町自治連合会の理事会において、提出された要望書の説明等をしていただくようになっていっていると思う。三和地区のまちづくりビジョンを進めていく上においても、一つの団体からの要望という形ではなく、今後どのような管理や活用をしていくのかなども含めて、皆さんで協議をしながら進めていくことが必要ではないか。</p>	